

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 066

肥料はしっかり土壌に混ぜましょう。は絶対か？

肥料の施用は、作土全体へムラなく混和するのが望ましいと言われます。根が伸長する土層へ広く施肥することで、無駄のない利用を促し作物の生育を良好にします。でも、そうではないケースもあり、面白いところです。

有機肥料は微生物を読み、化成肥料は土壌状態を読むと◎

有機肥料は比較的ジックリ・適度な肥効発現をすることから、ド力効き・スパッと切れ が少ない点が評価されています。また土壌団粒化促進等の効果も魅力的です。注意点としては有機肥料は化成肥料と異なり『微生物の働きに肥効が左右される』ことです。

- ①深く透き込むよりは、浅めの表層施用のほうが効きが良い場合が多い。
(有機分解菌が表層に比較的多く存在し、無機化が促進されやすいため 特に不耕起時)
- ②土壌消毒直後の効きが悪く、後になってドンと効くと感じる。
(消毒で減少した土壌微生物の「回復に合わせて」肥効が発現しやすくなるため)
- ③連用すると効果が安定すると感じる。

(連用で土着の土壌微生物の量が増え、有機物の無機化が起こりやすくなるため)
など、有機肥料は微生物の影響を受ける事例です。

有機肥料を活かすには『微生物が良く働く条件』を整えることが大切で、上手く使うと頼もしい肥料と言えます。

一方、化成肥料は狙いどおりの肥効が得られやすい反面、土壌水分・地温が肥効に大きく影響するため。施用量や施用時期に注意することが大切となります(昨今は「予想外の高温」によって追肥管理は必須と言えます)

土壌微生物や気象の影響を考慮し、作物が欲しがる栄養素を適時に効かせるように肥料の種類・施用法に知恵を絞りたいところです。

弊社品を使い、根の吸収力を引き出そう

弊社粒状製品は「廃糖蜜」を使っています。廃糖蜜は土壌微生物の優良なエサとなり土壌微生物を活性化します。弊社製品を使い続けると土壌が改善されると感じる一因がここにもあります。

弊社製品の使用方法是、栽培時に併用する3要素 (NPK) 肥料により

- ・有機主体の肥料には・・・ 作土表層に浅めに透き込むようにする
- ・化成主体の肥料には・・・ 作土全体に深めに透き込むようにする

等の工夫すると、肥料の吸いを後押しするでしょう。(肥効エリアの根張りを強化)

なお、低温期は微生物の動きが鈍いため、保温資材を併用したり、十分な土作り期間を設けたり、と栽培管理の工夫と合わせて弊社製品をご利用くださいませ。